

## 第2回 学校外での子供の多様な学びに関する有識者会議 議事要旨

開催日時：令和5年10月11日（水曜日） 16時00分から18時00分

開催場所：都庁第二本庁舎31階特別会議室23

出席者：秋田喜代美座長、今村久美委員、加瀬進委員、川崎由起子委員、  
中島さち子委員、宮尾益知委員（以上6名）

### ■議題

(1) 学校外における多様な学びの充実に向けた支援のあり方について

○ 都内のフリースクール等が実施している多様な活動事例を紹介。

<委員からの主な意見>

- ・不登校の子供にとって、どのような学びがよいのか、丁寧な分析が必要。
- ・日常的、長期的な学びが多様にあるとよい。学校とフリースクールの連携があってもよい。
- ・学校へ行く、行かないに関係なく、子供の学ぶ力や認知性、社会性の向上が保障されなければならない。
- ・フリースクールに来ることができていない子供と保護者をどのようにつなぐかが重要。
- ・大人がよいと思っている学びの取組が、子供たちの現状と合っていない可能性もある。
- ・海外には知識を得るだけでなく、物を作る場所にもなる、開かれた公共の場があり、そのような観点もあるとよい。
- ・家庭と地域との関係に近いフリースクールに、居場所を見つけられる子供もいる。子供たちに、社会や友達とつながる場、学びの場が必要。
- ・子供に凸凹な個性や違いがあることで、保護者の自己肯定感が低くなることもある。子供の特性について、保護者に理解してもらう機会を提供できるとよい。

(2) 学校外の多様な学びの場等への支援のあり方について

- 学校外の多様な学びの場等への支援に向けた、今後の方策のあり方について説明。

<委員からの主な意見>

- ・どのような保護者でも心理的負担を軽減しながら、支援を受けられる状況にするためには、アウトリーチ的な情報発信が必要。相談窓口はあるけれども、アウトリーチが足りてないという前提に立つことが大事。
- ・地域の居場所に関する保護者への情報が多様であり、保護者と子供が学校とフリースクールどちらも選択できる環境がよい。
- ・保護者の心を休める民間の施設や団体のコミュニティも大切。そのような施設や団体に保護者をつなげていくことが重要。
- ・フリースクールに通う子供の状況について、学校とコミュニケーションが取れるようなツールを作っていくべき。